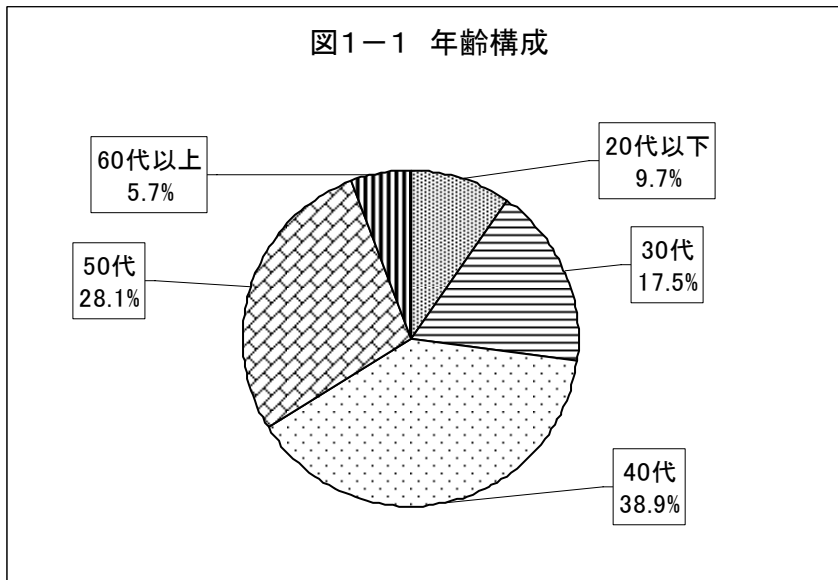


# 「教育に関するアンケート」調査結果

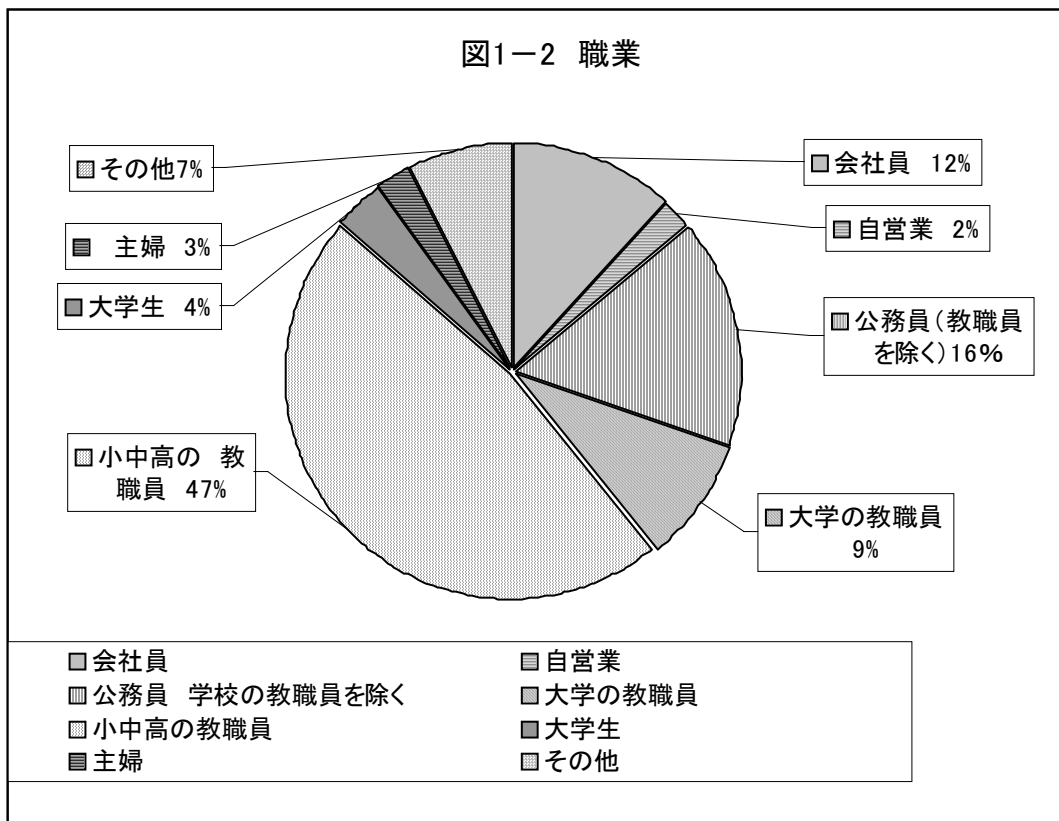
## 1 回答者の属性



【実施期間】  
平成19年4月13日  
～平成19年4月19日

【有効回答件数】  
1755件

【調査方法】  
文部科学省「初中教育ニュース」(初等中等教育局メールマガジン)の読者に対し、WEB上で実施

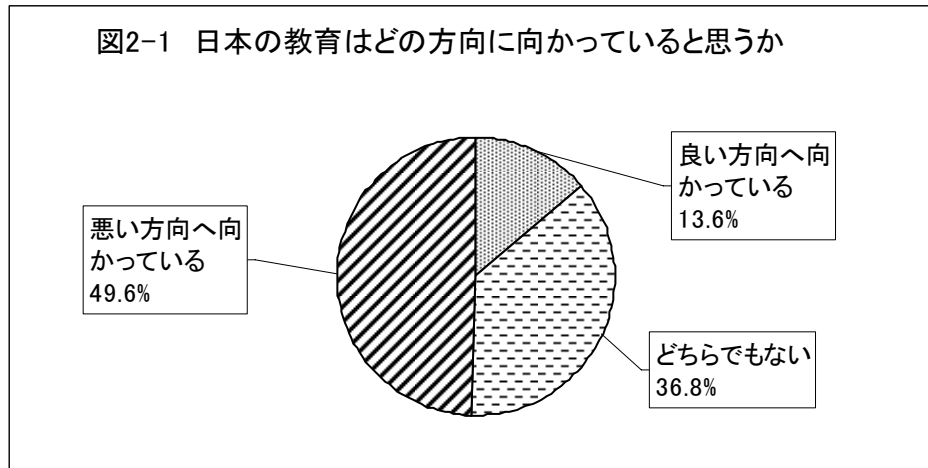


- 回答者の年代は40代が最も多く、50代、30代と続く。
- 回答者の職業は小・中・高等学校の教職員が半数近くを占める。

## 2 回答

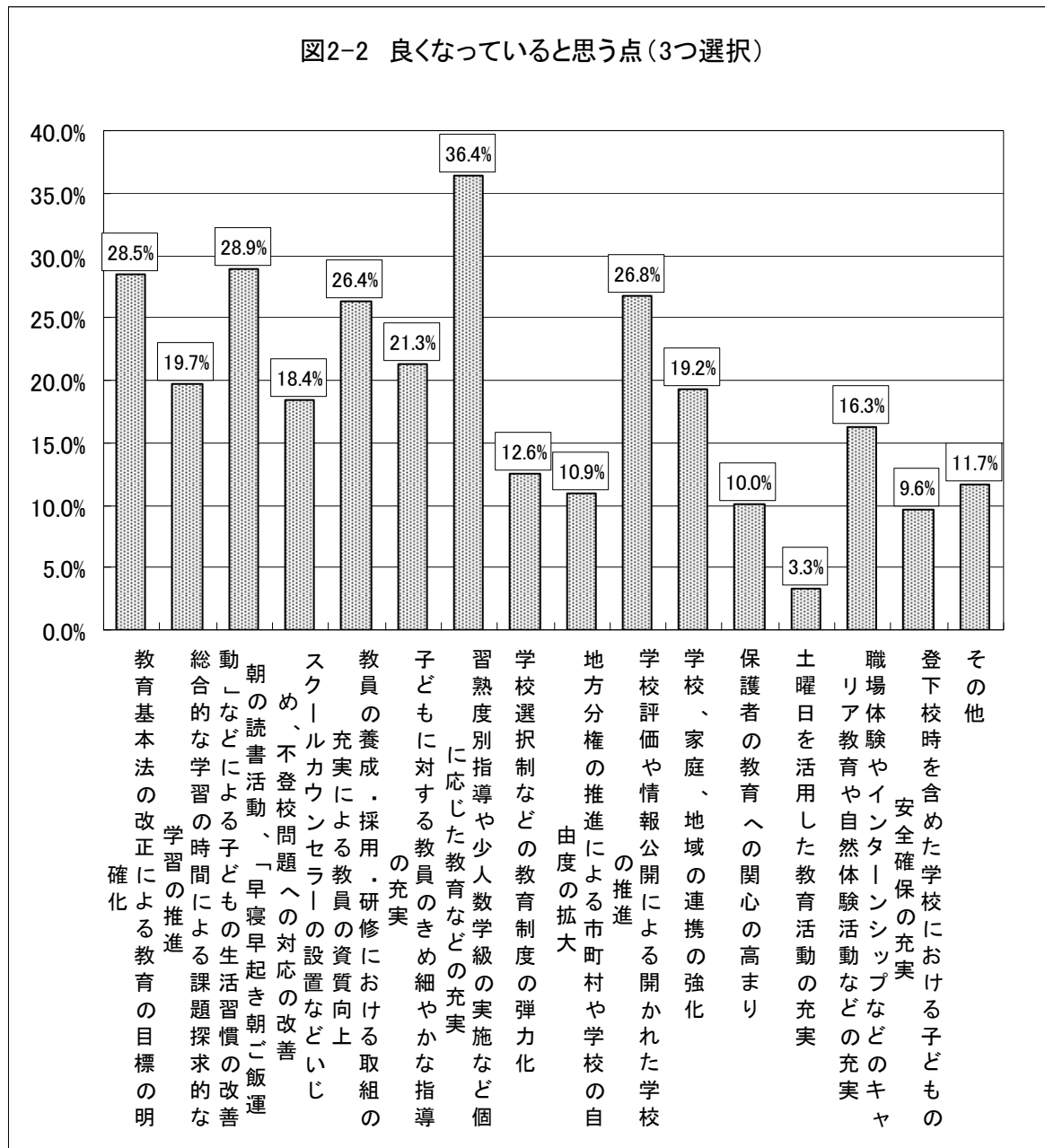
### ① 全体の傾向

日本の教育が悪い方向へ向かっていると考える人が、約半数を占めるが、良い方向に向かっていると回答した人は約14%いる。



② (良い方向に向かっていると回答した人のみ対象) 具体的に教育の何が良くなっていると思うか。(複数回答)

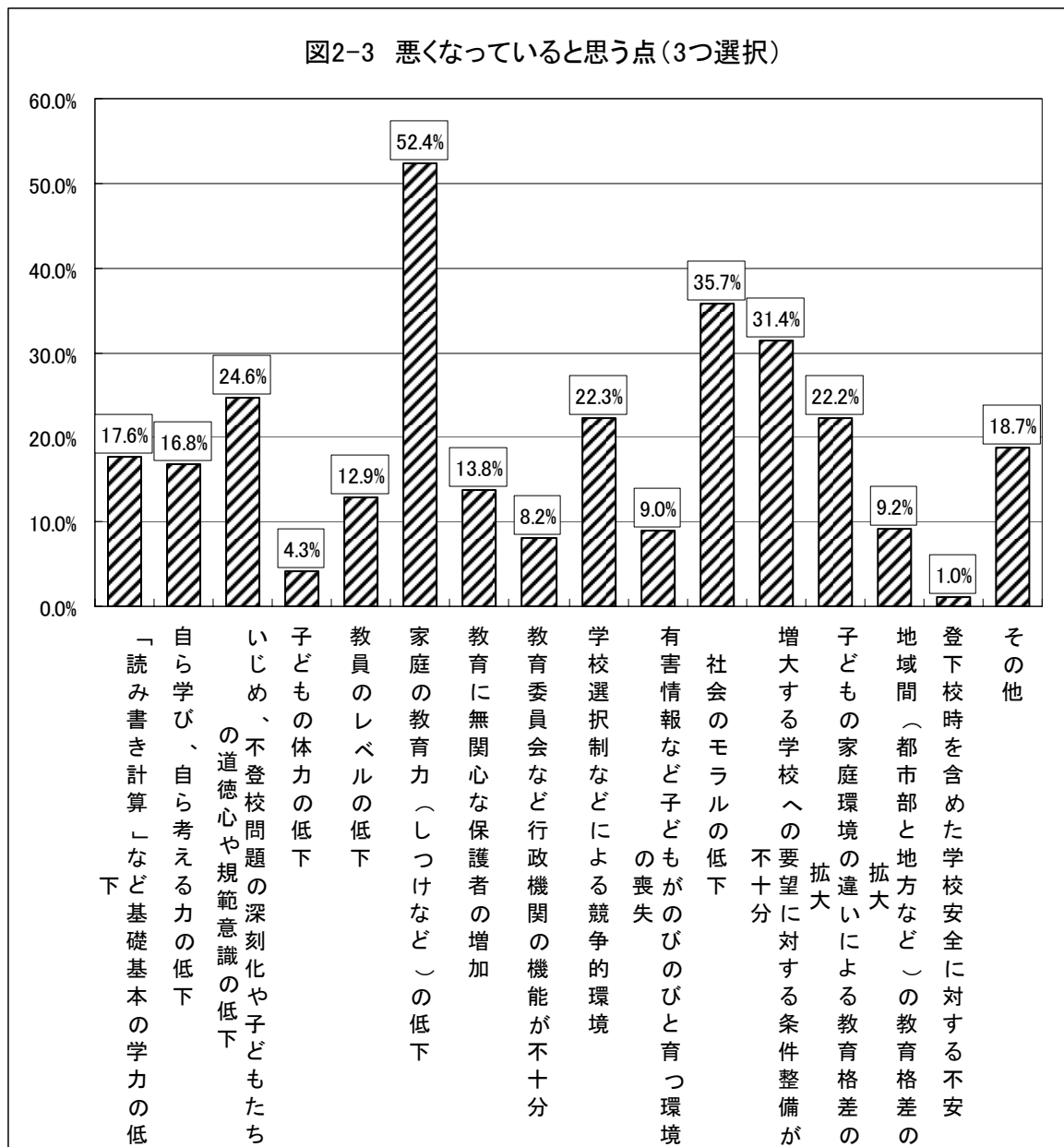
具体的に良くなっていると思う点についての質問(複数回答)では、「習熟度別指導や少人数学級の実施など個に応じた教育などの充実」が36.4%で、以下、「朝の読書活動、『早寝早起き朝ご飯運動』などによる子どもの生活習慣の改善」(28.9%—回答率以下同様)、「教育基本法の改正による教育の目標の明確化」(28.5%)の順となっている。



※ 複数回答のため合計は100%にならない

③ (悪い方向に向かっていると回答した人のみ対象) 具体的に教育の何が悪くなっていると思うか。(複数回答)

具体的に悪くなっていると思う点についての質問(複数回答)では、「家庭の教育力(しつけなど)の低下」(52.4%)をあげる人が最も多く、約半数をしめた。以下、「社会のモラルの低下」(35.7%)、「増大する学校への要望に対する条件整備が不十分」(31.4%)となっている。日本の教育の悪くなっている点として学校教育以外の家庭の教育や社会の問題をあげている人が多いことがわかる。



※ 複数回答のため合計は100%にならない

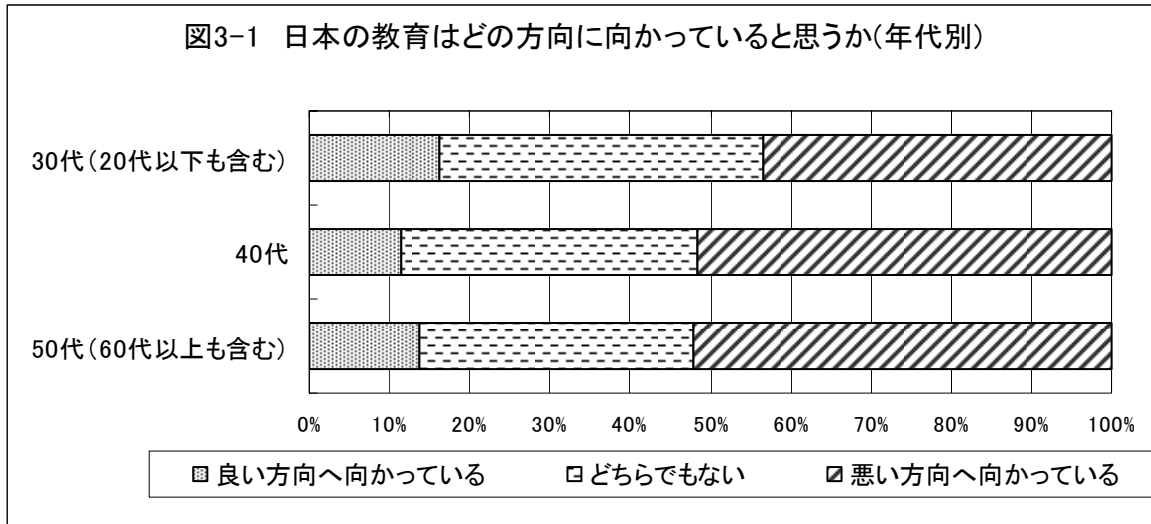
### 3 分析

#### 1) 年代別による回答の比較

ここでは、30代(20代以下を含む 以下同様)、40代、50代(60代以上を含む 以下同様)を、回答傾向に差があった項目を中心に分析

##### ① 全体的傾向

日本の教育が良い方向に向かっていると回答した割合は、30代が最も高く、40代が最も低い。一方、悪い方向へ向かっていると回答した割合は、30代が最も低く、40代、50代はほぼ同じ回答率である。



## ② 良い方向に向っていると回答した人の年代別傾向

- 「教育が良くなっていると思う点(3つ選択)」という質問では、「習熟度別指導や少人数学級の実施など個に応じた教育などの充実」がどの年代でも最も回答率が高かった。
- 30代は、他の年代と比較して「朝の読書活動、『早寝早起き朝ご飯運動』などによる子どもの生活習慣の改善」や「総合的な学習による課題探求的な学習の推進」、「職場体験やインターンシップなどのキャリア教育や自然体験活動などの充実」があげられ、子どもに関する具体的な取組への評価が高いことがうかがえる。
- また、「保護者の教育への関心の高まり」への回答率が高い一方、「教員の養成・採用・研修における取組の充実による教員の資質向上」、「教育基本法の改正による教育の目標の明確化」、「登下校時を含めた学校における子どもの安全確保の充実」については低い。
- 40代は他の年代に比較して、「子どもに対する教員のきめ細やかな指導の充実」や「登下校時を含めた学校における子どもの安全確保の充実」が良い方向に向っていると回答している割合が高い。一方で、「学校・家庭・地域の連携の強化」は他の年代に比較して、回答率が低く大きな開きがある。
- 50代は他の年代と比較して「教育基本法の改正による教育の目標の明確化」や「教員の養成・採用・研修における取組の充実による教員の資質向上」、「学校評価や情報公開による開かれた学校の推進」(この項目は40代も高い回答率)をあげており、学校を取り巻く外的要因に対する関心の高さがうかがえる。また、「学校選択制などの教育の弾力化」への回答率は、他の年代と比較して高い。

表3-1 良くなっていると思う点(3つ選択)の回答者の年代別傾向

	具体的に教育の何が良くなっていると思うか	30代(20代以下も含む)	40代	50代(60代以上も含む)
1	教育基本法の改正による教育の目標の明確化	23.1%	27.8%	34.1%
2	総合的な学習の時間による課題探求的な学習の推進	24.4%	17.7%	17.1%
3	朝の読書活動、「早寝早起き朝ご飯運動」などによる子どもの生活習慣の改善	32.1%	29.1%	25.6%
4	スクールカウンセラーの設置などいじめ、不登校問題への対応の改善	20.5%	17.7%	17.1%
5	教員の養成・採用・研修における取組の充実による教員の資質向上	19.2%	26.6%	32.9%
6	子どもに対する教員のきめ細やかな指導の充実	17.9%	26.6%	19.5%
7	習熟度別指導や少人数学級の実施など個に応じた教育などの充実	37.2%	38.0%	34.1%
8	学校選択制などの教育制度の弾力化	10.3%	11.4%	15.9%
9	地方分権の推進による市町村や学校の自由度の拡大	14.1%	7.6%	11.0%
10	学校評価や情報公開による開かれた学校の推進	14.1%	32.9%	32.9%
11	学校、家庭、地域の連携の強化	21.8%	13.9%	22.0%
12	保護者の教育への関心の高まり	15.4%	8.9%	6.1%
13	土曜日を活用した教育活動の充実	5.1%	3.8%	1.2%
14	職場体験やインターンシップなどのキャリア教育や自然体験活動などの充実	23.1%	11.4%	14.6%
15	登下校時を含めた学校における子どもの安全確保の充実	6.4%	12.7%	9.8%
16	その他	15.4%	13.9%	6.1%

※ 複数回答のため合計は100%にならない

### ③ 悪い方向に向っていると回答した人の年代別傾向

- 「教育が悪くなっていると思う点(3つ選択)」という質問では、「家庭の教育力(しつけなど)の低下」、「社会のモラルの低下」などはどの年代でも回答率が高かった。
- 年代別に見たときに30代は、良くなっていると思う項目で「保護者の教育への関心の高まり」(※)、悪くなっていると思う項目でも「教育に無関心な保護者の増加」、「子どもの家庭環境の違いによる教育格差の拡大」など保護者に関連する項目をあげる割合が他の年代よりも高く、家庭の教育力が教育の良し悪しに大きな影響を与えていると考えていることが分かる。
- 40代は、他の年代に比較して「『読み書き計算』など基礎基本の学力の低下」と回答した割合が高い。
- 50代は、他の年代と比較して「社会のモラルの低下」、「有害情報など子どもがのびのびと育つ環境の喪失」、「増大する学校への要望に対する条件整備が不十分」を悪くなっていると感じた割合が他の年代よりも高く、学校や家庭などを取り巻く外的要因が教育を悪い方向に向かわせていると考えていることがわかる。

※・・・「表3-1 良くなっていると思う点(3つ選択)の回答者の年代別傾向」参照

表3-2 悪くなっていると思う点(3つ選択)の回答者の年代別傾向

	具体的に教育の何が悪くなっていると思うか	30代(20代以下も含む)	40代	50代(60代以上も含む)
1	「読み書き計算」など基礎基本の学力の低下	16.8%	20.4%	14.9%
2	自ら学び、自ら考える力の低下	16.8%	16.7%	16.8%
3	いじめ、不登校問題の深刻化や子どもたちの道徳心や規範意識の低下	27.9%	22.7%	24.6%
4	子どもの体力の低下	6.3%	3.4%	3.9%
5	教員のレベルの低下	14.9%	13.6%	10.7%
6	家庭の教育力(しつけなど)の低下	51.9%	52.1%	53.1%
7	教育に無関心な保護者の増加	15.9%	14.4%	11.7%
8	教育委員会など行政機関の機能が不十分	10.6%	7.6%	7.1%
9	学校選択制などによる競争的環境	22.1%	20.7%	24.3%
10	有害情報など子どもがのびのびと育つ環境の喪失	6.7%	8.5%	11.0%
11	社会のモラルの低下	32.7%	35.7%	37.9%
12	増大する学校への要望に対する条件整備が不十分	21.6%	34.3%	34.6%
13	子どもの家庭環境の違いによる教育格差の拡大	25.0%	20.4%	22.3%
14	地域間(都市部と地方など)の教育格差の拡大	5.8%	9.9%	10.7%
15	登下校時を含めた学校安全に対する不安	1.0%	1.7%	0.3%
16	その他	23.1%	18.4%	16.2%

※ 複数回答のため合計は100%にならない